

公益目的支出計画実施報告書に関する監査報告書

一般財団法人 京都ボーイスカウト振興会
理事長 荒巻 賢一 殿

私たち監事は、平成25年4月1日から平成26年3月31日までの事業年度における公益目的支出計画実施報告書を監査した結果、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

私たち監事は、理事及び使用人等と意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人等からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、法人事業所において業務及び財産の状況を調査いたしました。

以上の方針に基づき、当該事業年度に係る公益目的支出計画実施報告書について検討いたしました。

2. 監査の結果

公益目的支出計画実施報告書は、法令及び定款に従い、法人の公益目的支出計画の実施状況を正しく示しているものと認めます。

平成26年 5月 21日

一般財団法人 京都ボーイスカウト振興会

監事 小林 勝太郎

監事 石田 松太郎

平成26年6月1日

京都府知事

山田 啓二殿

法人の名称 一般財団法人京都ボーアイスカウト振興会

代表者の氏名 荒巻 穎一

公益目的支出計画実施報告書等の提出について

一般社団法人及び一般財団法人に関する法律及び公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律第127条第3項の規定により、別紙のとおり 平成25 年度（ 平成25年4月1日 から 平成26年3月31日 まで）の公益目的支出計画実施報告書等を提出いたします。

【別紙1:法人の基本情報】

法人コード	A019372
法人名	一般財団法人京都ボーアイスカウト振興会

1. 基本情報

フリガナ	イッパンザイダンホウジンキョウトボーアイスカウトシンコウカイ			
法人の名称	一般財団法人京都ボーアイスカウト振興会			
主たる事務所の住所及び連絡先	住所	〒6018047京都府京都市南区東九条下殿田町70番地		
	代表電話番号	075-662-8801(内線) FAX番号075-662-8803		
	代表メールアドレス	yagi@kyoto-bs.jp		
	ホームページアドレス	http://kyoto-bs.jp/		
代表者の氏名	荒巻 穎一			
事業年度	04月01日～03月31日			
担当者注	氏名(又は名称)	奥村 建治	役職(又は担当者名)	事務局長
	電話番号	075-662-8801	FAX番号	075-662-8803
	電子メールアドレス	yagi@kyoto-bs.jp		
事業の概要	京都府下のボーアイスカウト運動の振興、ボーアイスカウト運動の普及宣伝、国内および国際ボーアイスカウト行事への協力・援助、青少年の育成および指導者の養成、国際貢献活動および社会貢献活動の支援を営む。			

注：代理人による提出の場合は委任状を添付し、代理人が法人の場合は「氏名」の欄に名称を、「役職」欄に担当者名を記載してください。

【別紙2:公益目的支出計画実施報告書】

2. 公益目的支出計画実施報告書

【平成25 年度(2013/4/1 から 2014/3/31 まで)の概要】

1. 公益目的財産額	51,542,479円
2. 当該事業年度の公益目的収支差額 ((1)+(2)-(3))	6,018,043円
(1)前事業年度末日の公益目的収支差額	2,893,286円
(2)当該事業年度の公益目的支出の額	3,124,757円
(3)当該事業年度の実施事業収入の額	0円
3. 当該事業年度末日の公益目的財産残額	45,524,436円
4. 2の欄に記載した額が計画に記載した見込み額と異なる場合、その概要及び理由 注	
今後の実施事業の規模を鑑みても、公益目的支出計画全体の実施期間に関しては影響がないと考える。	

注:詳細は、別紙様式に個別の実施事業等ごとに記載してください。

【公益目的支出計画の状況】

公益目的支出計画の 完了予定事業年度の末日	(1)計画上の完了見込み	平成42年3月31日
	(2)(1)より早まる見込みの場合	

	前事業年度		当該事業年度		翌事業年度
	計画	実績	計画	実績	計画
公益目的財産額	51,542,479円	51,542,479円	51,542,479円	51,542,479円	51,542,479円
公益目的収支差額	3,540,730円	2,893,286円	7,090,730円	6,018,043円	9,640,730円
公益目的支出の額	3,540,730円	2,893,286円	3,550,000円	3,124,757円	2,550,000円
実施事業収入の額	0円	0円	0円	0円	0円
公益目的財産残額	48,001,749円	48,649,193円	44,451,749円	45,524,436円	41,901,749円

注:前事業年度及び当該事業年度の計画及び実績の額、翌事業年度の計画の額を記載してください。

(2)[公益目的支出計画実施報告書]

【実施事業(継続事業)の状況等】

(事業単位ごとに作成してください。)

事業番号	事業の内容
継1	京都府下のボーイスカウト運動の振興・普及宣伝、ボーイスカウト行事への協力・援助、青少年の育成および指導者の養成、ならびに国際貢献活動および社会貢献活動の支援事業

(1)計画記載事項

事業の概要

1. 事業の趣旨

(1)設立の趣旨

当法人は京都府下のボーイスカウト運動を振興し、もって、青少年の品性の向上および国際友愛の精神の育成に役立つことを目的として、昭和48年4月4日に設立した法人です。

当法人設立当時は、ボーイスカウト運動及び日本ボーイスカウト京都連盟(以下、「京都連盟」という。概要是以下「(参考)日本ボーイスカウト京都連盟とは」を参照)において、財政的基礎の確立なくして、発展はないとの理解のもと、昭和41年に市長を退任された京都連盟長である高山氏から退職金の一部の寄付を受け、その後の京都連盟の剩余金積立分、京都連盟関係者の寄付等によって、当法人を設立したものです。

(2)ボーイスカウト運動とは

ボーイスカウト運動とは、1907年に英国人ベーテン・パウエル氏が自らの体験から考案した、青少年の育成に関する具体的な考え方を、その著「スカウティング・フォア・ボーイズ」で明らかにし、自らも実験キャンプなどでこれを実践し、大きな反響をまきおこし、英のみならず、いち早く世界の各国に広まった運動です。

その運動は、青少年が将来幸福な人生、より良い社会人となるよう人間にとって必要なものを、それぞれの年齢、成長段階に応じて身につけていく活動です。

そして、その過程にあって、健全な信仰心、国や郷土への正しい思い、世界兄弟愛と人々への奉仕など、大切な精神を身につけていきます。

また、かけがえのない地球の大自然を尊び、自然環境の中で人格、健康、技能、奉仕の四つを基軸として学び、最小限必要な大人の協力・支援のもとに、少年達の自発的な活動によって進められています。

我国では、大正11年にボーイスカウト日本連盟(現在は公益財団法人ボーイスカウト日本連盟。以下、「日本連盟」という。)が結成され、全国的にスタートしましたが、それに先立つ大正4年に、京都では独自の少年のための育成組織(京都連盟)が結成され、平成27年には100周年を迎える予定であり、このような長い歴史と伝統に支えられ、有為の人材を数多く育てて来ています。

現在我国に約15万6千人、京都では約3千7百人のスカウトが熱心に活動を続けています。

(3)当法人の事業

当法人の事業は、京都府下のボーイスカウト運動を振興し、もって、青少年の品性の向上および国際友愛の精神を育成するために、(1)ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業、(2)青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業、(3)指導者養成のためのプログラム企画運営事業、(4)国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動のための共催事業、(5)ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業を実施しています。

2. 事業の内容

(1)ボーイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア)助成の対象者

京都府下において、ボーイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボーイスカウト運動を行う団体

(イ)助成の趣旨・用途

ボーイスカウト運動にかかる指導者研修・キャンプに要する経費、世界ジャンボリー・日本ジャンボリー及びベンチャースカウト大会へのスカウト派遣に要する経費、その他ボーイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ)助成実績(平成22年度)

ボーイスカウト講習会(計6回)、ウッドバッジ実修所・研修所(計3回)、日本ジャンボリー(日本連盟主催のキャンプ大会でボーイスカウトの国内最大行事)等に必要となる経費合計2,300千円を助成

(エ)助成対象者からの助成申請及び実績報告

助成対象者からは書面による助成申請(事業の収支予算及び事業の実施概要)を受け、書面による実績結果(事業の収支決算及び事業の実施状況)を受けています。

(2)青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア)体験活動の所在地

・広河原野営場: 京都市左京区広河原尾花町27番地
(当法人所有: 山林22,559平方メートル、原野521平方メートル)

(イ)体験活動の運営主体

京都連盟

(ウ)体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供している

(エ)体験活動を通じて学習できる経験とその価値

ボーイスカウト教育における自然体験活動は単なる戸外ではなくもっと広い、もっと大きな自然から学ぶことを意図しています。つまり、大自然を教場としています。大自然の中に身をおき、身体を鍛え、技能を磨き、知識と強い意志を身につけ、中でも大自然の神祕に触れ、人のよばぬ強大なを感じるとき、創造主としての神を感じ、仏の加護に感謝する気持ちが生まれ、自然と信仰が芽生え育っています。このような日常のスカウト活動を通じ育っていく信仰心が年齢を重ねていくに従い、より明確な形となり、神(仏)への努めを果たす社会人になっていくと考えています。

(3)指導者養成のためのプログラム企画運営事業

(ア)趣旨

青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、青少年の育成を指導する立場にある一般の参加者に対して、講演会を実施するものです。

(イ)参加者の募集方法

ホームページを通じて募集する。

(ウ)実施回数

年1回以上を予定

(4)国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業

(ア)国際交流・国際貢献活動支援

ボイスカウトを対象に海外キャンプへの派遣、海外スカウトのホームステイ受入、国際協力プロジェクトの派遣実施等

(イ)社会に役立つ事業活動支援

一般青少年を対象にした青少年元気サポート事業(アウトドアチャレンジ)

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会、全国車いす駅伝競走大会、視覚障害者マラソン京都大会の沿道整理奉仕

(ウ)環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動、京都市「まち美化運動」に参加

(5)ボイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

(ア)地域の不特定多数の青少年に対するボイスカウト運動の普及宣伝を図る事業として、ホームページを通じて、スカウトの日(コミ拾い等の奉仕活動を実施する日)等に地域の青少年の参加を促しています。

(イ)ボイスカウト・指導者等のボイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行っています。

(ウ)ボイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼しています。

3.財源
会費4.事業実施のために必要となる土地等の資産
広河原野営場土地・建物は当法人が所有・運営・管理

以上

(1)当該事業に係る公益目的支出の見込額	3,550,000円
(2)当該事業に係る実施事業収入の見込額	0円

(2)当該事業年度の実施状況

事業の実施状況について

1.事業の実施状況 概要

平成25年4月1日から平成26年3月31までの会計期間は、新一般財団法人における2回目の事業報告となります。

一般財団法人の新体制のもと、(1)ボイスカウト行事等に対する助成協力事業、(2)青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業、(3)指導者養成のためのプログラム企画運営事業、(4)国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動のための共催事業、(5)ボイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業を実施しました。

平成25年度は、ボイスカウト行事等に対する助成協力事業として、日本ボイスカウト京都連盟(以下「京都連盟」という。)が行う第16回日本ジャンボリーへの助成協力1,000千円を含め、合計2,300千円の助成金を支出しました。

また、国際交流・国際貢献活動として、平成25年11月26日から30日において、世界スカウト財団名誉総裁カール16世グスタフ・スウェーデン国王の入洛による、第66回ワールドベーデン・パウエル・フェローシップ晚餐会の後援団体として、地元京都地域からの招待者を含めて160名を超える方々のご参会に関して協力をを行うとともに、最終日に下賀茂神社境内「糺の森」で開催された京都連盟創立100周年スカウトランナーをサポートし、グスタフ名誉総裁以下BPフェローシップメンバーをお迎えし、京都のスカウト達との交流を成功裡に終えることができました。

さらに、指導者養成のためのプログラム企画運営事業においては、平成26年3月9日に、「京都スカウト活動報告会2014—青少年のためのリーダーシップトレーニング」と題して、スカウト自身が体験と夢を語り、ボイスカウト活動についてプレゼンテーションを実施し、主催者として参画しました。スカウト関係者のみならず一般の方々にも多数ご参加頂きました。

当法人が所有する広河原野営場は、19日間、のべ人数459名の使用実績となりました。

2.事業報告の内容

(1)ボイスカウト行事等に対する助成協力事業

(ア)助成の対象

京都府下において、ボイスカウト運動の趣旨を理解し、組織的にボイスカウト運動を行う団体として、京都連盟を助成対象とした。

(イ)助成の趣旨・使途

ボイスカウト運動にかかる講習・実修・研修・キャンプに要する経費、世界ジャンボリー・日本ジャンボリー・京都ジャンボリー及びベンチャースカウト大会へのスカウト派遣に要する経費、その他ボイスカウト運動に欠くことができない重要な行事のために必要となる経費

(ウ)事業実績

事業費として、2,300千円を支出した。この内、1,000千円は、第16回日本ジャンボリー開催に伴う事業費に対する助成である。京都連盟では、日本ジャンボリーへ366名を派遣した。残額の1,300千円は、京都連盟の進歩費、国際費、安全費、環境費、コミッショナーアイゼンバード賞、イベント費、ボイスカウト講習会及びウッドバッジ実修所・研修所運営費等に必要となる事業費の一部に対して助成した。

(参考)ボイスカウト講習会の実施状況

6月23日、10月20日、11月24日、1月19日、3月16日の計5回実施

(参考)ウッドバッジ実修所・研修所の実施状況

5月3日～6日(3ヶ所)、6月2日、1月20日の計5回実施

(2)青少年の育成を目的とした自然体験活動のためのキャンプ企画事業

(ア)体験活動の所在地

広河原野営場:京都市左京区広河原尾花町27番地

(当法人所有:山林22,559平方メートル、原野521平方メートル)

(イ)体験活動の運営主体

京都連盟

(ウ)体験活動に参加が予定されている対象者

青少年の育成を目的とした組織団体に無償提供する。

(エ)体験活動に参加した対象者、使用月日、使用人数等

対象者 使用月日 使用人数

山開き 4/6-7 48人

野営場整備 7/13-14 40人

京都12団 8/10-12 60人

京都38団 8/12-18 140人

京都第29団	9/21-23	45人
冬こもり	11/30-12/1	28人
京都第58団	2/1-2	28人
京都第4団	2/8-9	22人
京都第68団	2/15-16	48人
合計	19日	のべ459人

(才)事業実績

広河原野営場建物の減価償却費80千円・固定資産税4千円が主な費用実績である。

(力)広河原野営場近隣における舎官施設土地建物の取得について

現在、広河原野営場の近隣に舎官施設土地建物を取得又は賃借すべく、所有者との協議を継続中である。

(3)指導者養成のためのプログラム企画運営事業

(ア)趣旨

青少年の育成を指導する人としての素養を涵養するために、企業人、教育者等の有識者を講師に迎え、青少年の育成を指導する立場にある一般の参加者に対して、講演会を実施するものです。

(イ)内容

挨拶・講評 荒巻 穎一氏

(本会理事長、前京都府知事・前日本ボーイスカウト京都連盟連盟長)

プレゼンテーション スカウトメンバー

内容「京都スカウト活動報告会2014—青少年のためのリーダーシップトレーニングー」

(①)個人の進歩への取組(富士章スカウト報告)

自ら進んで課題に挑戦し、達成の証にバッジを着用するのはスカウトメソッドの醍醐味。そのバッジの最高峰が富士章です。晴れある富士章の受章者が、「富士への道」を語ります。

(②)国際交流(海外派遣による体験)

外国に友だちをつくり、友だちは争わないから、その国とは戦争をしない。スカウトの友情を広げれば世界は平和に… 肌で感じた世界の多様性と、その尊び方の実践例です。

(③)大学生年代の活動(京都ユースネットワークの活動紹介)

昨秋の世界スカウト財団名誉総裁グスタフ・スウェーデン国王を迎えた京都大会の運営協力や、「ありがとうプロジェクト」などですますます存在感の高まる若者集団。活動を紹介します。

(ウ)開催場所

聞法会館

(エ)開催日時

平成26年3月9日(日)15時~17時

(オ)参加者

青少年及び育成指導者を中心に参加

(カ)講演会事業費実績

事業費として、50千円(会場費)を支出した。

(4)国際交流・国際貢献活動、社会に役立つ事業活動、環境・まち美化活動支援のための共催事業

(ア)国際交流・国際貢献活動支援

世界スカウト財団第66回BPフェローシップイベントが11月26日から30日に京都にて開催。世界スカウト財団名誉総裁カール16世グスタフ・スウェーデン国王の入洛による、第66回ワールドベーデン・パウエル フェローシップ晚餐会の後援団体として、地元京都地域からの招待者を含めて160名を超える方々のご参会に関して協力をするとともに、最終日に下賀茂神社境内「糺の森」で開催された京都連盟創立100周年スカウトラリーをサポートし、グスタフ名誉総裁以下BPフェローシップメンバーをお迎えし、京都のスカウト達との交流を実施。事業費として、189千円を支出した。

(イ)社会に役立つ事業活動支援

一般青少年を対象とした青少年元気サポート事業(アウトドアチャレンジ)

全国都道府県対抗女子駅伝競走大会、全国車いす駅伝競走大会、視覚障害者マラソン京都大会の沿道整理奉仕

(ウ)環境まち美化活動支援

「みどりの募金」活動、京都市「まち美化運動」に参加

(5)ボーイスカウト運動の振興及び普及宣伝事業

(ア)地域の不特定多数の青少年に対するボーイスカウト運動の普及宣伝を図る事業として、ホームページを通じて、スカウトの日(ゴミ拾い等の奉仕活動を実施する日)等に地域の青少年の参加を促す。

(イ)ボーイスカウト・指導者等のボーイスカウト関係者、維持会員、並びに不特定多数の皆様に対して、ホームページを通じて、当法人の事業計画等・京都連盟の事業計画等を適時に適切な範囲でディスクローズし、健全な運営を行う。

(ウ)ボーイスカウト運動の振興を図るために維持会員及び潜在的な維持会員に対して、ホームページを通じて、会費の協力を依頼する。

(エ)事業費実績

事業費は、504千円(普及宣伝費24千円、ホームページ運営改革費378千円、通信運搬費34千円、印刷製本費38千円など)を支出した。

以上

(1)当該事業に係る公益目的支出の額	3,124,757円
(2)当該事業に係る実施事業収入の額	0円
(3)((1)-(2))の額	3,124,757円
(4)当該事業に係る損益計算書の費用の額	3,124,757円
(5)当該事業に係る損益計算書の収益の額	0円

(1)及び(2)に記載した額が計画に記載した額と異なる場合、その内容及び理由 注

今後の実施事業の規模を鑑みても、公益目的支出計画全体の実施期間に関しては影響がないと考える。

注:この事業に係る公益目的支出の額等の変更が、公益目的支出計画全体の実施に影響を与えるか否かについても記載してください。

別表A[公益目的支出計画実施報告書]

【公益目的支出計画実施期間中の収支の見込みについて】

(1) その他の主要な事業について

変更の内容及び公益目的支出計画の実施に対する影響等 注1

特に記載すべき内容はない。

注1: その他の主要な事業として、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」に記載した事業のうち、その事業の内容や実施方法に変更があった場合に、事業番号、変更の内容、その理由及び公益目的支出計画の実施に対する影響を記載してください。

また、新たにその他の主要な事業を開始した場合は、その旨、当該事業の概要及び公益目的支出計画の実施に対する影響を記載してください。なお特に記載すべき内容がない場合はその旨入力してください。

(2) 資産の取得や処分、借入について

実施内容(計画の変更内容)及び公益目的支出計画の実施に対する影響等 注2

特に記載すべき内容はない。

注2: 「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載した多額の借入や施設の更新、高額財産の取得・処分等の活動を実施した場合は、公益目的支出計画に与えた影響を記載してください。また、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載したものの中、計画内容に変更があった場合に、変更の内容、その理由及び公益目的支出計画に対する影響を記載してください。

また、「公益目的支出計画実施期間中の収支の見込み」の備考欄に記載したもの以外で、法人全体の財務に大きな影響を与える活動を新たに予定する場合は、その内容、理由及び公益目的支出計画に対する影響を記載してください。なお特に記載すべき内容がない場合はその旨入力してください。

別表B[公益目的支出計画実施報告書]

【引当金等の明細】

(1) 実施事業に係る引当金

番号	引当金の名称		目的		事業番号	
	期首残高	当期増加額	当期減少額			
			目的使用	その他		
	なし。					
	円	円	円	円	円	

(2)(1)以外の引当金のうち、算定日において計上していたもの

番号	引当金の名称		目的				
	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高		
			目的使用	その他			
	なし。						
	円	円	円	円	円	円	

(3)「その他支出又は保全が義務付けられているもの」としたもの 注

番号	財産の名称		目的				
	期首の価額	当期増加額	当期減少額		期末の価額		
			目的使用	その他			
	なし。						
	円	円	円	円	円	円	

注:算定日において、退職給付会計導入に伴う変更時差異の未処理額を公益目的財産額から控除した場合については、当該未処理額は記載不要です。なお特に記載すべき内容がない場合は空欄のまま「登録」ボタンをクリックしてください。